

① 申請者	奈半利町、田野町、 ◎安田町、北川村、馬路村	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
-------	---------------------------	-------	--------------------------

③ タイトル

森林鉄道から日本一のゆずロードへ
ーゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化ー

④ ストーリーの概要（200字程度）

南国土佐の東に位置する中芸^{ちゅうげい}地域。かつて西日本最大の森林鉄道が駆け巡った中芸は、林業に代わる産業としてゆず栽培に力を注ぎ、今や日本一の生産量を誇っている。木材を運んだ森林鉄道の軌道は、ゆず畑の風景広がる「ゆずロード」に生まれ変わったのである。

川沿いや山間に広がるゆず畑を、小さくかわいい白い花、深く鮮やかな緑の葉、熟すとともに濃くなる黄色の果実が季節ごとに彩る景観。ゆず寿司などの風味豊かな郷土料理。中芸のゆずロードをめぐれば、ゆずの彩りに満ちた景観と、ゆずの香り豊かな食文化を堪能することができる。



⑤ 担当者連絡先

担当者氏名			
電 話		FAX	
E-mail			
住 所			

構成文化財の位置図



構成文化財の位置図

A 安田町



B 田野町・奈半利町



ストーリー

高知市内から東に約 50 キロに位置する中芸地域。日本三大杉美林の一つに数えられる杉林が広がる急峻な四国山脈の山並み。そこから流れる安田川と奈半利川の二本の清流には、日本一の天然鮎が泳ぐ。河口には、雄大な土佐湾を背景に、土佐漆喰や水切瓦、いしぐろ（石塀）が用いられた屋敷や酒蔵が建ちならぶ町並みが広がる。この中芸の地を、爽やかな香りで包み、目に鮮やかに彩るのが「ゆず」である。

日本三大杉美林と^{やなせ}魚梁瀬森林鉄道

中芸は、かつては林業で栄え、大木を伐る掛声が響く地であった。古くは弘法大師の時代から伐り出され、豊臣秀吉が洛陽東山佛光寺の大仏殿の建材に用いた銘木・魚梁瀬杉をはじめ、多くの木材を産出し、安田川・奈半利川に流して河口へ、そして海から日本全国へと送り出してきた。

明治末から敷設がはじまり、隧道や橋梁により中芸一帯を環状に繋いだ魚梁瀬森林鉄道、通称「りんてつ」は、木材の搬出だけでなく、トロッコで学校に通い、トロッコでお嫁入りなど人の暮らしを繋ぎ交流を生んだ。原生的杉林景観の残る千本山、材木業や回船業で名を馳せた豪商の屋敷が軒を連ねる町並みとともに中芸にちりばめられた 18 ヶ所におよぶ「りんてつ」の遺構群は、林業の隆盛とこの地の繁栄を象徴している。

林業からゆずへ ゆずが季節ごとに彩る中芸の風景

中芸のゆず栽培のはじまりは、江戸時代に遡る。当時、北川村で庄屋見習いをしていた中岡慎太郎が、自生するゆずに注目し、防腐や調味のために使えるようにと栽培を農民に奨励したとされ、現在もゆずの古木が山裾に残る。この地の暮らしに根づいてきたゆず栽培だが、それが産業として花開くのは 1960 年代以降のことである。

1960 年代、天然林が枯渇する中で、中芸の人びとは、林業に代わる新たな産業を探さなければならなかった。そこで力を注いだのが、ゆず栽培である。身近にあったゆずの魅力と価値に改めて注目し、それを産業化すべく、りんてつの軌道が敷かれた川沿いにある田畑をゆず畑に変え、木材を運び出していた山間では、山面の限られた土地に石垣を築き段々畑を開いた。昔ながらの有機栽培にこだわりながらも、日本初となる機械式柚子搾汁機の開発やゆず加工商品の開発にも積極的に挑戦していった。

こうして産業化が進められた中芸のゆずは、今では作付面積 200 ヘクタールを越え、日本一の生産量を誇る。近年では、ヨーロッパに輸出されるまでになり、ゆずの風味を世界に届けている。



中芸の風景
天然鮎が泳ぐ奈半利川



中芸独特の水切瓦



古い町並みに残る
いしぐろ（石塀）



りんてつ軌道跡に残る
明神口橋



森林鉄道の当時の様子が
わかる古い写真

ゆず畑では、初夏に小さくかわいらしい白い花を咲かせ、夏には深く鮮やかな緑の葉っぱと果実を輝かせる。秋を迎え、ゆずの果実が熟すとともに濃い黄色に色づくとき、あたり一帯に爽やかな香りが立ち込める。そうして収穫の時期を迎えると、ゆず収穫の安全祈願と初絞りを楽しむゆず祭りを皮切りに、ゆず満載の軽トラックや収穫の喜びにあふれる人びとで、中芸全体が活気づく。季節ごとに彩りを変える日本一のゆず畑が広がる景観を、目と鼻の両方で楽しむことができる。



初夏、小さく愛らしいゆずの花が咲く

ゆず香る中芸の食文化

古の時代から日本人が親しんできた風味であり、すまし汁の吸口に使われるなど「和食」に不可欠なゆずは、中芸の食文化にも欠かせない。

酸味が強く香り高いと評価される当地のゆずを皮ごと絞り、その持ち味を凝縮した「^{ゆのす}柚酢」は、酢の物に使ったり、刺身にかけて食べたりと普段の食事にはもちろん、ハレの料理にも欠かせない。ハレの日を祝い客人をもてなす宴席「おきゃく」では、この地を流れる清流を用いて醸された土佐酒やゆず酒とともに、地元の新鮮で多彩な山海の幸を大皿に盛った皿鉢料理が豪快に振る舞われる。皿鉢料理には、土佐湾沖で捕れたカツオなどの刺身、川で獲れるツガニの煮付けといった組物、そしてたっぷりの柚酢で仕立てる「ゆず寿司」が盛られる。リュウキュウ（ハスイモの茎）やタケノコなどの山菜を用いたゆず寿司、天然鮎や鯖などを一匹まるごと使ったゆず寿司を頬張れば、口いっぱいゆずの爽やかな風味が広がる。

ゆずをふんだんに使って地元の幸を風味豊かに仕上げる郷土料理は、中芸の食文化として、今も人びとの暮らしのなかで受け継がれている。



収穫前のゆず畑
鮮やかな葉に果実を輝かせる



収穫の秋
あたり一面に爽やかな香りが立ち込める

「りんてつ」から日本一の「ゆずロード」へ

時代の変化をたくましく生きる人びとの手によって、中芸の風景は「林業」から「ゆず」へと変わり、木材を運んだ「りんてつ」の軌道は、ゆずを運ぶ「ゆずロード」に生まれ変わったのである。

中芸一帯を走るゆずロードをぐるりとめぐれば、ゆずの香りと彩りに満ちた景観と、ゆずの風味豊かな食文化を満喫することができる。



ゆず祭りを皮切りに中芸は収穫で もっとも活気づく



ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の 所在地 (※4)
①	ゆず畑の景観	未指定	中芸地域の代表的な農産物であるゆずは、林業に代わって地域を支えた産業である。栽培面積は213ヘクタール、生産量は3,000トンを越え日本一を誇る。中芸地域の山間部を中心に、ゆず畑が広がっている。	中芸地域
②	ゆず料理	未指定	ゆずは1000年以上日本人に親しまれてきた和食には欠かせない食材である。中芸地域では、家庭料理だけではなく皿鉢料理や饗宴にも欠かすことはできない。柚子酢、ゆず寿司、ゆず酒などがある。	中芸地域
③	柚子の古木	北川村指定 天然記念物	北川村島集落に現存する樹齢300年を超える実生ゆずの古木。ゆずが、この地方で古くから人々の暮らしの中にあつたことがわかる。	北川村
④	ゆずさくじゅうき 柚子搾汁機	未指定	ゆずの産業化に先駆けて取り組んできた中芸地域では、柚子搾汁機も他地域に先んじて開発されてきた。	中芸地域
⑤	ゆずはじまる祭り	未指定	馬路村で毎年10月もしくは11月に開催される。ゆず収穫のはじまりを祝い、収穫の安全祈願と初絞りを楽しむ祭り。	馬路村
⑥	しんたろう 慎太郎とゆずの郷祭り	未指定	北川村で毎年10月に開催される。ゆず栽培を奨励した同村出身の中岡慎太郎の顕彰とゆずの収穫を祝う祭り。	北川村
⑦	なかおかしんたろうたくあと 中岡慎太郎宅跡	高知県指定 史跡	ゆず栽培を奨励した中岡慎太郎の生誕地。復元された生家がある。	北川村
⑧	なかおかしんたろう 中岡慎太郎 いはつまいそうぼち 遺髪埋葬墓地	北川村指定 史跡	ゆず栽培を北川村に広めることに貢献した中岡慎太郎は、坂本龍馬とともに京都で暗殺された。出身地北川村には、遺髪が戻り、埋葬墓地が作られた。	北川村
⑨	せんぼんやま 千本山	未指定	良材として知られた魚梁瀬杉の天然林のほとんどが伐採されたが、千本山には、樹齢約200～300年になる原生林が残されている。魚梁瀬杉の巨木とともに、原始的景観を見ることができる。	馬路村

⑩	はんせいぎ 藩政期の植林地	未指定	江戸時代、土佐藩は魚梁瀬山を土佐十宝山の「名上」として、天然林の管理・伐採を行った。一方、森林保護の目的で杉の植林を積極的に行い、現在も植林地には杉の巨木が残っている。	馬路村
⑪	あさひでやま おおすぎ 朝日出山の杉	馬路村指定 天然記念物	中芸地域の名木のひとつ。推定樹齢800年の杉の天然木。朝日出集落には、イネとゆずの収穫を感謝する祭りがあった。	馬路村
⑫	ざいもくなが 材木流し(絵馬) だ け さかもとじんじゃ (多気坂本神社)	奈半利町指定 有形文化財 (美術工芸品)	中芸地域の林業の長い歴史の中で、森林鉄道が敷設される以前は、安田川・奈半利川を利用して材木を運んだ。当時の奈半利川の様子が絵馬に描かれ、多気坂本神社に奉納されている。	奈半利町
⑬	ざいもくなが 材木流し(絵馬) さんこういん (三光院)	奈半利町指定 有形文化財 (美術工芸品)	中芸地域の林業の長い歴史の中で、森林鉄道が敷設される以前は、安田川・奈半利川を利用して材木を運んだ。当時の奈半利川の様子が絵馬に描かれている。	奈半利町
⑭	木材生産用具 うまじむら (馬路村郷土館)	未指定	鋸、ちょうな、はつりちょうな、など人力により伐採が行われていた時代、山で木を伐り、集め、運ぶ仕事には欠かせない道具類。なかでも、土佐鋸は道具として洗練され、全国に流通した。	馬路村
⑮	こんりんじやくしどう 金林寺薬師堂	国指定 重要文化財 (建造物)	良材の産地として古くから知られている魚梁瀬の木材を使って、弘法大師空海が創建したと伝えられる金林寺。薬師堂には、一夜建立の伝説がある。	馬路村
⑯	きたでらしよぞうぶつぞうぐん <u>北寺所蔵仏像群</u> もくぞうやくしによらいざぞう ・木造薬師如来坐像 もくぞうしやかによらいりゅうぞう ・木造釈迦如来立像 もくぞうぼさつぎょうりゅうぞう ・木造菩薩形立像 (1~5号) もくぞうじこくてんりゅうぞう ・木造持国天立像 もくぞうぞうちやうてんりゅうぞう ・木造増長天立像	国指定 重要文化財 (彫刻)	寺院建築のため、空海は安田川上流より木材を流した。途中で停留した木材から仏像群を造り、その場所に北寺を建立したと伝えられる。	安田町

⑰	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧魚梁瀬森林鉄道施設 ずいどう エヤ隧道	国指定 重要文化財 (建造物)	明治44年建設。ゆずロード上にある切石砂岩の空積みでつくられた石造隧道。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	安田町
⑱	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧魚梁瀬森林鉄道施設 じまづいどう バンダ島隧道	国指定 重要文化財 (建造物)	明治44年建設。ゆずロード上にある切石砂岩の空積みでつくられた石造隧道。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	安田町
⑲	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧魚梁瀬森林鉄道施設 ずいどう オオムカエ隧道	国指定 重要文化財 (建造物)	明治44年建設。ゆずロード上にある切石砂岩の空積みでつくられた石造隧道。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	安田町
⑳	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧魚梁瀬森林鉄道施設 みょうじんぐちばし 明神口橋	国指定 重要文化財 (建造物)	昭和4年建設。ゆずロード上にある下路式の鋼製単トラス桁橋。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	安田町
㉑	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧魚梁瀬森林鉄道施設 かまがたにさんどう 釜ヶ谷棧道	国指定 重要文化財 (建造物)	昭和2年建設。ゆずロード上にある現存する森林鉄道遺産唯一の石造アーチ橋。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	安田町
㉒	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧魚梁瀬森林鉄道施設 かまがたにばし 釜ヶ谷橋	国指定 重要文化財 (建造物)	大正15年建設。ゆずロード上にある安田川支流の釜ヶ谷谷川に架かる単線仕様の上路式鋼製単一形桁橋。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	安田町
㉓	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧魚梁瀬森林鉄道施設 ひらせずいどう 平瀬隧道	国指定 重要文化財 (建造物)	明治44年建設。ゆずロード上にある切石砂岩の空積みでつくられた石造隧道。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	馬路村
㉔	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧魚梁瀬森林鉄道施設 ごみずいどう 五味隧道	国指定 重要文化財 (建造物)	明治44年建設。ゆずロード上にある安田川線開通時に建造された石造隧道。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	馬路村

②5	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧魚梁瀬森林鉄道施設 おちあいばし 落合橋	国指定 重要文化財 (建造物)	大正14年建設。ゆずロード上にある安田川に架かる単線仕様の上路式鋼製単二形桁橋。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	馬路村
②6	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧魚梁瀬森林鉄道施設 こうぐちずいどう 河口隧道	国指定 重要文化財 (建造物)	大正4年建設。ゆずロード上にある切石砂岩の空積みでつくられた石造隧道。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	馬路村
②7	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧魚梁瀬森林鉄道施設 いぬぼうばし 犬吠橋	国指定 重要文化財 (建造物)	大正13年建設。奈半利川支流の犬吠谷川に架かる単線仕様の上路式鋼製橋梁。ゆずロード上にある。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	北川村
②8	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧魚梁瀬森林鉄道施設 い の たにばし 井ノ谷橋	国指定 重要文化財 (建造物)	大正13年建設。奈半利川支流の笹ヶ瀬谷川に架かる単線仕様の上路式鋼製橋梁。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	北川村
②9	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧魚梁瀬森林鉄道施設 ほりがをばし 堀ヶ生橋	国指定 重要文化財 (建造物)	昭和16年建設。近代に建造された充複式単アーチ橋で我が国最大級を誇る。ゆずロード上にある。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	北川村
③0	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧魚梁瀬森林鉄道施設 ふたまたばし 二股橋	国指定 重要文化財 (建造物)	昭和15年建設。ゆずロード上にある我が国最大級の無筋コンクリート造橋。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	北川村
③1	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧魚梁瀬森林鉄道施設 こしまばし 小島橋	国指定 重要文化財 (建造物)	昭和7年建設。奈半利川に架かる単線仕様の鋼製橋梁。ゆずロード上にある。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	北川村
③2	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧魚梁瀬森林鉄道施設 たちおかにごうさんどう 立岡二号棧道	国指定 重要文化財 (建造物)	昭和8年建設。ゆずロード上にあるコンクリートガーター橋。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	田野町

③③	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧魚梁瀬森林鉄道施設 はちまんやまこせんきょう 八幡山跨線橋	国指定 重要文化財 (建造物)	昭和8年建設。田野町の八幡神社の参道としてつくられた跨線橋。ゆずロード上にある。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	田野町
③④	きゅうやなせしんりんてつどうしせつ 旧魚梁瀬森林鉄道施設 ほうおんじこせんきょう 法恩寺跨線橋	国指定 重要文化財 (建造物)	昭和8年建設。三光院から南の旧道へ向かう跨線橋。ゆずロード上にある。中芸地域の林業を支え、沿線の人びとの交流を生み、暮らしを支えた森林鉄道遺構群のひとつ。	奈半利町
③⑤	しせんあといこうぐん 支線跡遺構群	未指定	橋台、木橋、鉄道敷など、林業盛時を偲ばせる遺構群。探索ツアーなどに活用されている。支線跡遺構は、中芸地域全域に点在する。	中芸地域
③⑥	きゅううまじえいりんしょ 旧馬路営林署	未指定	旧馬路営林署の建物は、ゆず産業を牽引してきた馬路村農業協同組の本所として現在も活用されている。隣接する敷地にあるゆず加工場では、年間を通じて、工場見学を受け入れている。	馬路村
③⑦	のむらしききかんしゃ 野村式機関車 (動態展示)	未指定	奈半利町の工場で製造され、昭和期の森林鉄道で活躍した野村式機関車。馬路村魚梁瀬丸山公園に動態展示されている。	馬路村
③⑧	写真資料Ⅰ てらだぶんこ 寺田文庫	未指定	寺田正氏撮影による、昭和期の森林鉄道稼働時期の貴重な写真(高知市立市民図書館所蔵)。	中芸地域
③⑨	写真資料Ⅱ 四国森林管理局保存の 大正～昭和初期の林業 関係写真	未指定	創設期の貴重な写真を多く含む森林鉄道関係の写真群。林業遺産(日本森林学会)に認定されている。	中芸地域
④⑩	おかごてん 岡御殿	高知県保護 有形文化財 (建造物)	近世の豪商田野五人衆の岡家により、藩主宿泊所として天保15年に建てられた。材木業や回船業で名を馳せた岡家は、御用銀の調達などで土佐藩とも関係が深く、林政にもかかわった。岡家に関する史料が展示されている。	田野町
④⑪	濱川家住宅 蔵・離れ	国登録 有形文化財 (建造物)	水切り瓦が見られる酒造の蔵。高知を代表する土佐酒のほか、ゆず酒を作っている。	田野町

④②	南商店 店舗兼主屋 外塀・内塀	国登録 有形文化財 (建造物)	林業盛時に繁栄した中芸地域海岸部安田町を代表する商家建築。土佐漆喰、水切り瓦を見ることができる。	安田町
④③	旧柏原家住宅 主屋及び離れ 表門 東土塀及び西土塀	国登録 有形文化財 (建造物)	林業盛時を彷彿とさせる地元産の良材がふんだんに用いられた和風建築で、土塀は土佐漆喰で塗られている。一般公開され、和室は、講座等に利用されている。	安田町
④④	旧市川医院	国登録 有形文化財 (建造物)	天井板などに、現代では入手困難な地元産の良材が使われている。展示スペースとして活用され、郷土史などをテーマとする企画展が行われている。	安田町
④⑤	竹崎家住宅 <small>たかだや</small> (高田屋) 主屋 離れ 蔵	国登録 有形文化財 (建造物)	竹崎家の店舗兼住宅で、母屋は、平屋建商家建築の一事例。蔵は土佐漆喰壁に水切り瓦を付けるなど当地方土蔵建築の特色を伝えている。林業と回船業で栄えた奈半利町を代表する建築。現在土蔵は、郷土資料の展示スペースとして活用されている。	奈半利町
④⑥	森家住宅 <small>きゅうのむらもくまてい</small> (旧野村茂久馬邸) 主屋 蔵 西石塀 南石塀 東石塀	国登録 有形文化財 (建造物)	土佐の交通王とされる野村茂久馬の邸宅。主屋、蔵には土佐漆喰、水切り瓦が見られ、西、南、東の壁は「いしぐろ」塀となっている。林業と回船業で栄えた奈半利町を代表する建築。	奈半利町
④⑦	<small>はまだのりひろけじゅうたく</small> 濱田典彌家住宅 主屋 かま屋 米あずかり場 土蔵 石垣塀	国登録 有形文化財 (建造物)	林業盛時、関西地方に材木運ぶ拠点として栄えた奈半利町には、豪商が軒を連ねた時代の面影が残る。濱田典彌家住宅は、その代表的な建築で、土佐漆喰の土蔵などが見られる。	奈半利町
④⑧	<small>ほしじんじゃ</small> 星神社のお弓祭り <small>ゆみまつ</small>	高知県 保護無形民俗 文化財	集落から選ばれ、からだを清めた 12 人の射手が、弓を射かけて五穀豊穡を祈願する祭り。神事後の共食では、ゆず寿司など、ゆずをふんだんに使った料理が振る舞われる。	北川村

- (※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。
- (※2) 指定・未指定の別、文化財 の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。
- (※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。
- (※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧

① ゆず畑の景観



④ 柚子搾汁機



② ゆず料理



⑤ ゆずはじまる祭り



③ 柚子の古木



⑥ 慎太郎とゆずの郷祭り



⑦ 中岡慎太郎宅跡



⑩ 藩政期の植林地



⑧ 中岡慎太郎遺髪埋葬墓地



⑪ 朝日出山の大杉



⑨ 千本山



⑫ 材木流し(絵馬)(多気坂本神社)



⑬ 材木流し (絵馬) (三光院)

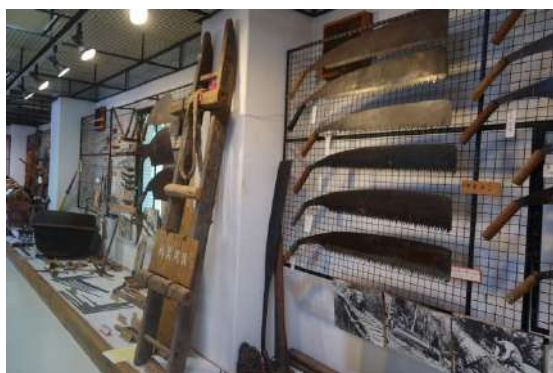


⑯ 北寺所蔵仏像群

- ・木造薬師如来坐像



⑭ 木材生産用具 (馬路村郷土館)



- ・木造釈迦如来立像



⑮ 金林寺薬師堂



- ・木造菩薩形立像 1号



・木造菩薩形立像 2号



・木造菩薩形立像 5号



・木造菩薩形立像 3号



・木造持国天立像



・木造菩薩形立像 4号



・木造増長天立像



⑰ エヤ隧道



⑳ 明神口橋



⑱ バンダ島隧道



㉑ 釜ヶ谷栈道



⑲ オオムカエ隧道



㉒ 釜ヶ谷橋



⑳ 平瀬隧道



㉑ 河口隧道



㉒ 五味隧道



㉓ 犬吠橋



㉔ 落合橋



㉕ 井ノ谷橋



②⑨ 堀ヶ生橋



②⑩ 立岡二号栈道



③① 二股橋



③② 八幡山跨線橋



③③ 小島橋



③④ 法恩寺跨線橋



③⑤ 支線跡遺構群



③⑧ 写真資料 I 寺田文庫



③⑥ 旧馬路営林署



③⑨ 写真資料 II 四国森林管理局保存の大正～昭和初期の林業関係写真



③⑦ 野村式機関車 (動態展示)



④⑩ 岡御殿



④① 濱川家住宅



④④ 旧市川医院



④② 南商店



④⑤ 竹崎家住宅 (高田屋)



④③ 旧柏原家住宅



④⑥ 森家住宅 (旧野村茂久馬邸)



④⑦ 濱田典彌家住宅



④⑧ 星神社のお弓祭り



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
51	森林鉄道から日本一のゆずロードへ ～ゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化～

(1) 将来像 (ビジョン)

自然と歴史文化が豊かに育まれ続ける中芸地域

～未来へつなぐゆずロード、関係人口が担う持続可能な地域づくり～

中芸地域5町村（以下、この項では「中芸」という。）の人口は、この5年間で約1万人から9千人台半ばにまで減少した。地域社会の活力を低下させ、生産機能等に支障をもたらす人口減少は、5町村それぞれの総合計画および高知県の中山間対策においても地域最大の課題として位置づけられている。

私たちはこの課題を、日本遺産認定から6年間の活動を通して構築した5町村の共通基盤の下、**関係人口の創出・拡大・深化**の中で生み出される新しい価値によって解決に導く。そのために、中芸の魅力が凝縮された日本遺産、“ゆずと林鉄”を効果的に活用する。

日本遺産を通じて人びとの豊かな関係が築かれ、人びとが支えあい、暮らし続けられる持続可能な中芸の将来像を、次のように私たちは思い描く。

① 関係人口の創出・拡大・深化

特産品「ゆず」と文化財「森林鉄道」、その景観と食文化の魅力に惹かれ、国内及びインバウンド観光客が訪れる。その中から、繰り返し中芸を訪れ、やがて仕事場として、休息の場として、生活の拠点のひとつに、さらに移住先を選ぶ人が現れる。ゆずをはじめとする中芸の地場産品購入者向けには、生産現場や生産者と触れあう体験プログラムが提供され、その体験がより強い共感と愛着を持つファン層の形成を促し、オンライン販売等による購買者、ふるさと納税者数の増強につながる。

② 関係人口がもたらす経済活性化

ゆずを中心とする地場産業や森林鉄道遺産を観光資源とする観光関連産業のマーケットが拡大し、既存の事業は活性化する。起業の気運が高まり、起業を志す人びとが集まる。そこから新規事業が立ち上がり、新たな仕事生まれる。事業者の経営が安定し、生産者である農家は後継者を得られる。関係人口の中から中芸の経済をけん引する人材が現れる。

③ 関係人口が、地域住民にアイデンティティ確認の機会を与え、次世代が育成される。

日本遺産によって中芸に関係づけられた人びとが鏡となって、肯定的な自画像を描くようになった地域住民が地域内関係人口となる。地域に誇りと愛着を持つ地域住民（移住者を含む）、関係人口から構成され、新しい価値観の下で、地域課題を自力で解決できる地域コミュニティが形成される。日本遺産構成文化財を含む中芸の歴史文化遺産の保存活用もそこで担われる。

日本遺産の活用によって拓かれた関係人口の、創出・拡大・深化のサイクルが確立され、再生した地域コミュニティが世代を越えて続いていく。

【上位計画への位置づけ】

5 町村の総合計画の策定または改訂年度は、以下のとおりである。

『第6次奈半利町総合計画（令和2年度）』・『田野町総合計画・総合戦略（令和2年度）』、『安田町総合振興計画（令和元年度）』・『北川村まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2年度版）』・『馬路村振興計画（令和3年度）』。

各町村とも、日本遺産構成文化財である旧魚梁瀬森林鉄道施設や古い町並みの建造物等の文化財を観光資源として活用することによって交流人口拡大を図るといった、日本遺産を踏まえた施策をすでに記載しているが、今般新たに掲げる将来像の達成に向けて、すべての町村が、より明確に位置付けするとの申し合わせが首長間でなされている。具体的には、次回策定等の際、日本遺産に関する特記項目を設け、前段にその意義と活用の方針に関する共通の記述を置き、続いて各町村の具体的な取組内容等を記載した構成とする。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-A インバウンド向け中芸日本遺産アドベンチャーツアーの購入者						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	—	—	—	30人	60人	120人
目標値の設定の考え方及び把握方法	インバウンド向け高額ツアー（2023年1月販売開始）販売数を、大阪万博が開催される2025年の目標120に設定。事業者への調査により把握する。					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-B 日本遺産のストーリーを体験できる施設の利用者数						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	—	—	—	1,000人	1,500人	2,000人
目標値の設定の考え方及び把握方法	中芸の日本遺産拠点施設である「日本遺産ゆずロードミュージアム」（仮称2023年4月開設）の来場者数を把握する。					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②-A：地域住民が、日本遺産に愛着を感じている割合						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	76%	81%	70.9%	75%	80%	85%
目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産に愛着を感じている地域住民の割合を、毎年実施しているアンケート調査により把握する。2022年から毎年約5%増の85%を、3年後の目標値とする。					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：日本遺産のストーリーをメインテーマとしたツアー及び体験プログラムの販売により、中芸地域の宿泊施設、飲食店、ガイドに支払われた額						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	—	—	50万円	340万円	680万円	1,360万円
目標値の設定の考え方及び把握方法	ツアー及び体験プログラムが概ね再開した2022年後半を基準とし、2025年大阪万博開催年に1,000万円超を目標とする。主催者に調査協力を依頼して把握する。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：未指定を含む48構成文化財について、文化財保存活用地域計画への記載に向けて実施された調査件数（累計）						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	—	—	—	16件	32件	48件
目標値の設定の考え方及び把握方法	構成文化財の調査もしくは再調査を実施して現状を確認し、文化財保存活用地域計画文化財リストに記載し、全48件すべてについて保存・活用の対象として明確に位置付ける。同計画策定事務局に実施状況を問い合わせることで状況を把握する。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：中芸地域への観光入込客数						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	437,814	471,156	523,648	540,000	549,000	559,000
目標値の設定の考え方及び把握方法	2019年(532,561人)を基準とし、2025年大阪万博での約5%増を目標とする。(一社)高知県東部観光協議会が把握する入込客数情報の提供を受ける。					

(3) 地域活性化のための取組の概要

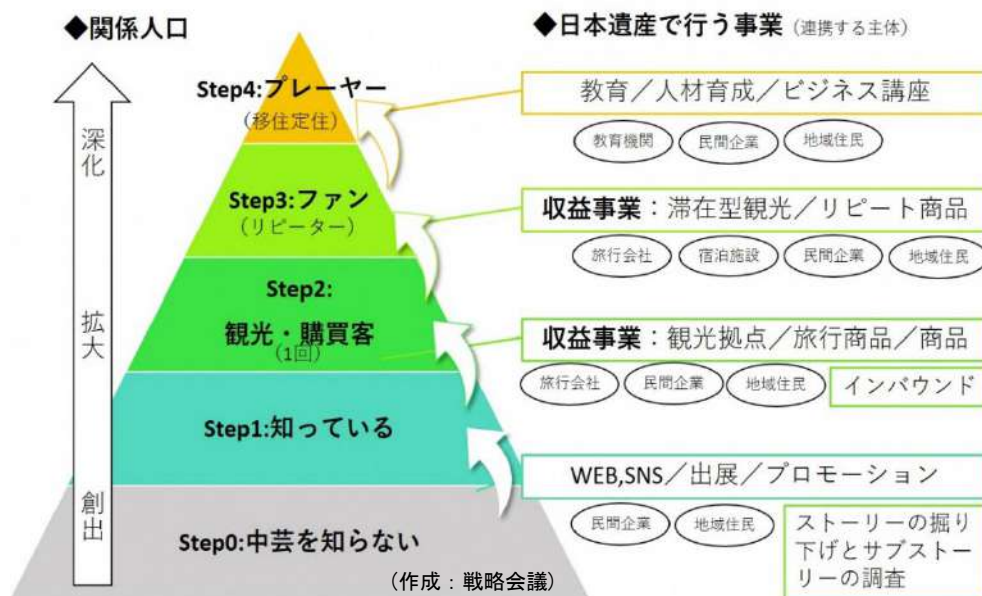
地域の現状・これまでの成果・課題

中芸は、人口減による地域社会の活力低下等諸課題に直面している。どこよりも地域活性化を必要としている地域であり、その実現のためのひとつの方策として、認定から6年間、日本遺産を活用したさまざまな取組を行ってきた。具体的には、中芸の日本遺産の浸透を図ることで地域アイデンティティを醸成し、あわせて観光振興等によって経済を活性化させることを目指してきた。

当地は、いわゆる観光地ではない。そのため観光振興には、事業者や住民に対する観光への意識づけからインフラ整備等まで、広範に亘る長期的な取組が必要な状況にあった。そこでまずは地域住民に向けたPR事業や地域の学校等への出前授業等、地域アイデンティティ醸成を目的とした事業の実施に注力した結果、中芸地域及び高知県内における日本遺産の認知度を向上させることができた。そのことによって、シリアル型で結ばれた中芸5町村の、行政、事業者、住民の間に、共通基盤ができたことは、大きな成果である。また、新型コロナウイルス感染症拡大によって直接的な観光客誘致の取組は停滞したが、その間、小規模ながら、地域資源発掘イベントは継続した。現在、そこから生まれた、森林鉄道遺構をめぐるトレッキングやゆず収穫体験などの体験プログラムのいくつかは、単独での販売、もしくは旅行商品に組み込める水準にまで磨き上げられている。日本遺産認定を機に大きく前進した高知大学との交流や事業連携が定着し、「日本遺産ゆずロードミュージアム」(仮称 安田町)の開設(2023年4月開設に向け試験的に公開中)などの成果を上げている。

現下の課題は、これまで注力してきた地域アイデンティティ醸成やPRを目的とする事業を継続しつつ、経済的な活性化を生むために、この間準備してきた旅行商品等の販売に、その仕組みづくりを含めて取り組み、将来像の実現に向かうことである。特に、令和7年度開催の大阪万博を見据えた、インバウンド誘客の取り込みに傾注する。

以上を踏まえた本計画における取組の概要を、将来像として掲げた関係人口の創出・拡大・深化を示した下図に沿って記す。



① Step 0 から Step 1 ストーリーの魅力を更新しつつ、認知度を上げる。

・ストーリー及び構成文化財の掘り下げ(中芸版文化財保存活用地域計画策定への協力等)、サブスト

ーリーの調査を、専門家（高知大学、ひがしこうち香酸柑橘類研究会等）との連携によって行う。

- ・（一社）高知県東部観光協議会（当協議会構成団体）の協力の下、観光動態モニタリングサービス（おでかけウォッチャー）を導入し、正確で緻密な情報に基づいたマーケティング戦略を立てる。
- ・上記を基に、WEB、SNSによる効果的な情報発信を行う。
- ・プロモーションを目的とした中芸日本遺産独自のイベント（ゆずや森林鉄道などストーリーの構成要素をテーマとする）を企画・運営する。
- ・日本遺産関係やその他関連するPRイベント（例：構成文化財「ゆず料理」が認定されている100年フードフェスティバル）や物販機会の中から、効果が期待できるものを厳選の上、地元事業者（例：馬路村農協）と連携して出展する。
- ・モニターツアーを重ねて商品化したインバウンド向けe-Bikeアドベンチャーツアーの海外へのプロモーション（商談会への参加、WEB・SNS情報発信等）を行う。

② Step 1からStep 2 収益事業を行う中で、交流人口（インバウンドを含む）を拡大する。

- ・これまでに造成してきた団体旅行、個人旅行、教育旅行などの魅力的な観光商品や体験プログラムの洗練化をターゲットごとに図り、販売を促進する。
- ・これまで大きな成果をあげている、オンパク手法による、日本遺産ストーリーを体感できる体験プログラムイベント（ゆずFeS）を毎年開催し、これまで限定的であった県外からの参加者増に取り組む。
- ・日本遺産ストーリーに関わる項目（例：ゆず、森林鉄道）にかかわる全国組織の大会、学会等を誘致し、全国から来場者が見込まれるイベントを開催する。
- ・県内外の大学との連携を継続し、学生のフィールドワークや研究に協力する。
- ・「日本遺産ゆずロードミュージアム」（仮称 安田町）の運営を通して拠点の在り方を研究し、同スペースの充実を図りつつ、他町村への展開や恒久的な施設の設置を検討する。

③ Step 2からStep 3 収益事業を行う中で、交流人口から関係人口を創出・拡大させる。

- ・長期滞在型の旅行商品（例：アドベンチャーツアー、ウェルネスツーリズム）を、国内富裕層、インバウンド向けに造成し、販売する。
- ・リピーターにつながる魅力的な旅行商品に不可欠な、高い技術を有するガイドを育成する。
- ・観光等で中芸の交流人口となった顧客の管理を行い、情報発信等を活用して中芸ファンにする。

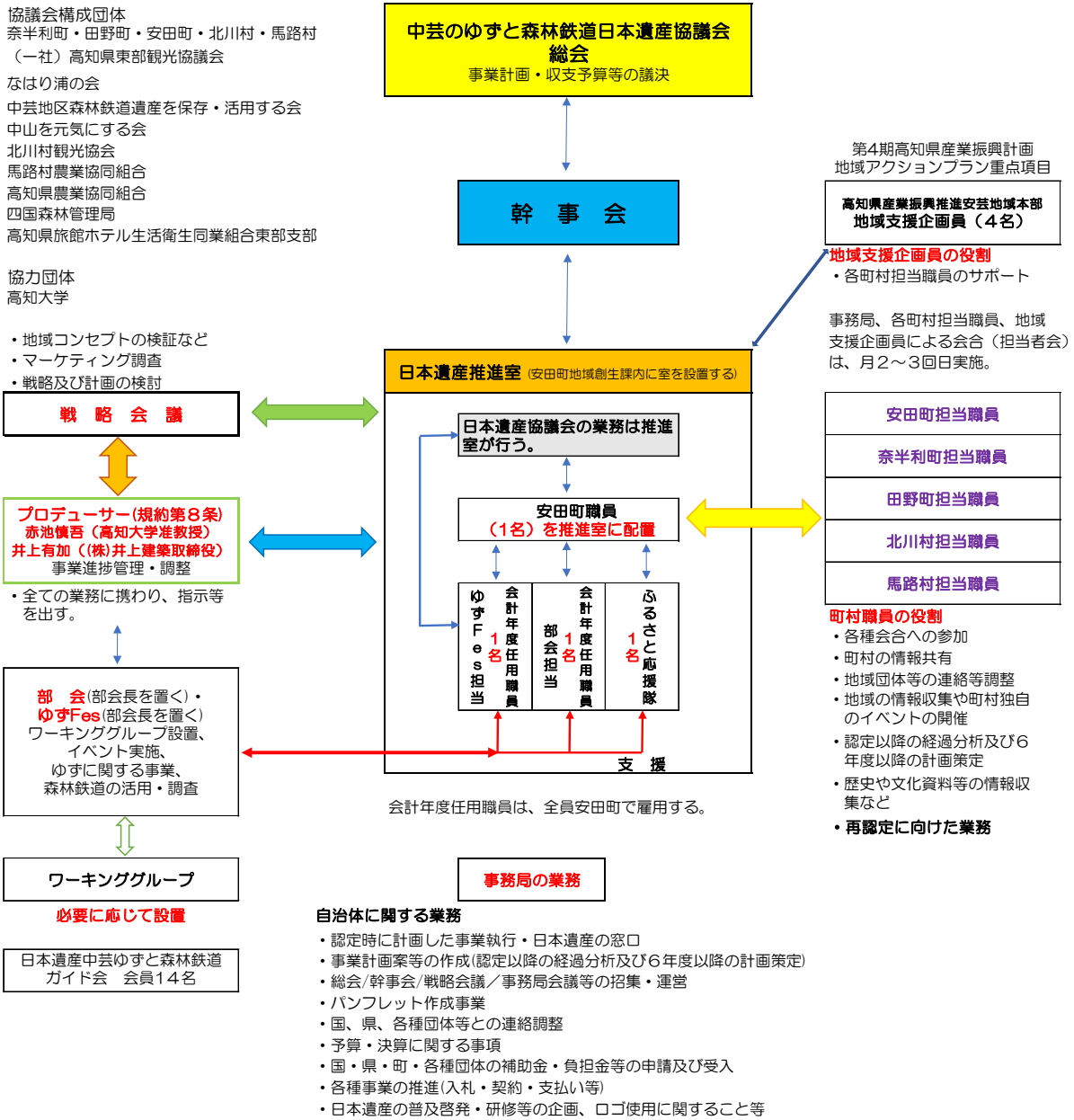
④ Step 3からStep 4 関係人口を深化させ、地域を支える次世代の人材を育成する。

- ・地域事業者の支援、もしくは創出された関係人口に対し、起業支援（例：ビジネス講座開催）を行う。
- ・必要な人材発掘（地域住民及び関係人口）を含め、“稼ぐ仕組み”（例：地域商社設立）の確立に向けた事業（例：ビジネス講座開催）を実施する。
- ・創出された関係人口が、地域行事や協議会主催イベント企画・運営にスタッフとして関わる仕組みを構築し、将来的な移住定住も視野に置いて、中芸との関係を深化させる。
- ・域内教育機関（例：各町村の全小中学校、中芸高校）において、正規・課外を問わず、日本遺産をテーマとする授業をつくり、長期的な地域アイデンティティ醸成に取り組む。
- ・学生及び教員が中芸地域の関係人口となるよう、高知大学他との連携事業を継続・発展させる。
- ・関係人口の深化を移住につなげるために、各町村の移住促進事業と連携して事業を実施する。
- ・関係人口の深化を目的として、地域の歴史・文化を深く学べる機会を提供する事業を実施する。

⑤ ①～④を実現するための組織体制の最適化

- ・現体制の強化をはかるとともに、より効率的で実効性のある体制構築に向けた改革に取り組む。

(4) 実施体制



上記は、協議会を中心とした現行組織体制である。令和4年度に安田町役場地域創生課内に日本遺産推進室が設置されたことを契機に改組したもので、安田町地域創生課の担当職員1名と3名の専任職員からなる事務局、地域内外の住民、住民団体、事業者、団体、大学、5町村の行政、高知県が連携して日本遺産事業を推進している。令和5年度は同じ体制で事業を実施するが、1年間の実績を踏まえ、より実効性のある組織への展開を図る。協議会を中心として、『高知県東部広域観光振興計画(第2期)』において、日本遺産を、広域観光を推進する主な打ち手に位置づけている(一社)高知県東部観光協議会(DMO)のほか、中芸の日本遺産公認ツアーを主力商品として販売する民間旅行会社、ゆず関連商品を製造販売する事業者、農協、農家と連携した実施体制を構築、強化する。また、中芸の日本遺産を第4期産業振興計画地域アクションプラン重点支援項目としている高知県の支援及び高知大学との連携も継続する。なお、令和5年度から、実績のある外部人材を日本遺産推進室長に迎えることが確定しており、2名の日本遺産プロデューサーとともに、中芸の日本遺産をけん引する役割を担う。

[人材育成・確保の方針]

地域住民を含めた様々な人材を発掘、育成し、中芸の関係人口創出・拡大に寄与してきた協議会の部会及び体験プログラムイベントゆずFeSの機能を維持・強化する。さらに関係人口の深化につながるイベントや講座への参画を通し、実践の中で人材の育成・確保を図る。

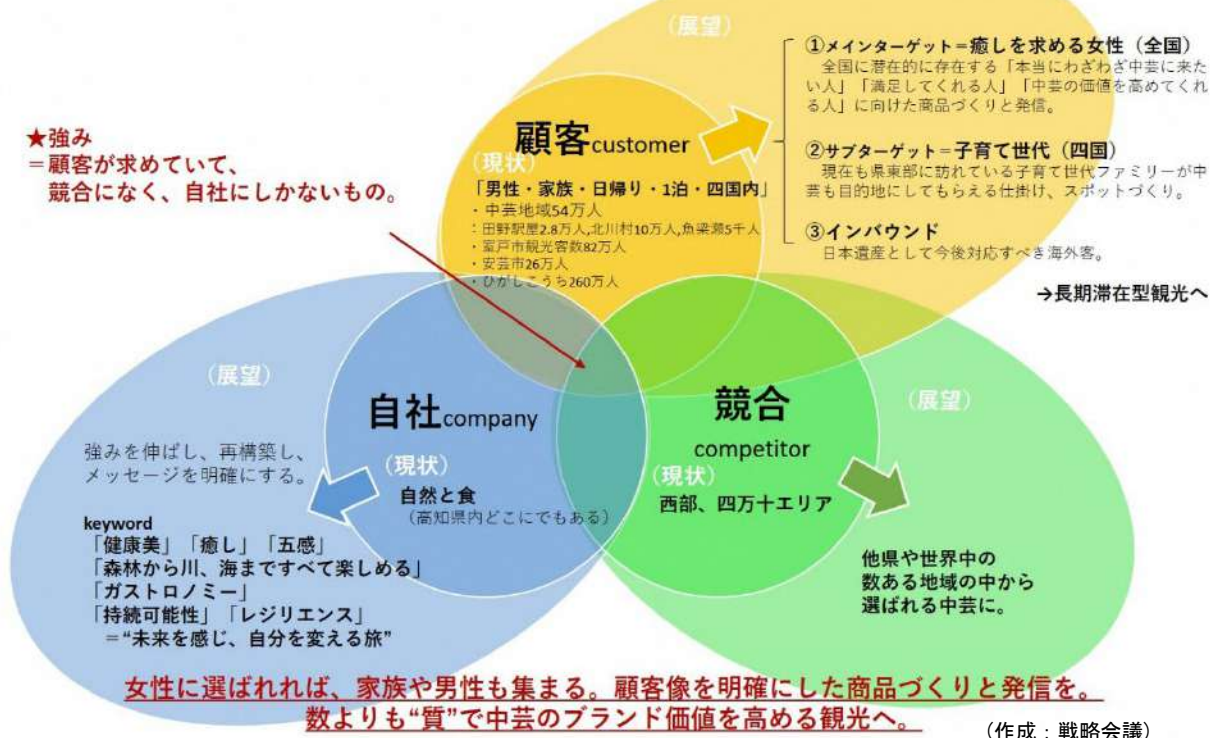
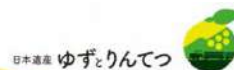
(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

中芸の日本遺産事業は、認定以来、中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会（任意団体）が運営してきた。令和4年度からは、安田町役場地域創生課内に日本遺産推進室が設置されて日本遺産に関する業務を担い、協議会事務局員と安田町職員が業務に携わっている。事業実施にかかる費用及び人件費の主たる財源は、中芸5町村の負担金で、各町村はふるさと納税等を負担金に充てている。必要な負担金の支出については5町村とも継続の方針であり、協議会は、自立・自走しているといえる。

一方で、中芸の日本遺産が掲げる、日本遺産を活用した経済的な活性化の実現のためには、自治体の負担金で運営される現行の協議会中心の体制では制限が多い。令和4年度前半は、この課題解決をテーマに戦略会議で議論し、他地域（福井県小浜市等）の視察も行った。その結果、収益活動を行う別組織の必要性が共通認識として得られた。

このことを踏まえ、令和4年度後半から、収益活動に携わる別組織の在り方について討議し、収益活動という側面から、中芸の特徴は、下図のように捉えられることを確認した。

中芸日本遺産「観光」の3C分析と展望



上記で示した展望を念頭に、具体的に複数の事業の検討を行ったほか、令和4年12月～令和5年1月には中芸地域ビジネス講座（3回）を開催し、中芸の日本遺産を活用したビジネスの可能性について専門家と意見交換を行い、同時に参加者の中から人材の発掘を試みた結果、今後、日本遺産事業への積極的な協力が期待できる専門家のネットワーク及び地域在住の人材を得ている。

協議会では、引き続き戦略会議で議論を重ね、収益活動を担い、自立自走する別組織の在り方について、構成団体、域内事業者、地域住民、ビジネス講座参加者、専門家及び高知県と協議しながら議論を

深め、本計画期間内の実現を目指した各方面への働きかけの方策、支援体制を検討する。計画期間内の自立自走の別組織設立を目指し、令和4年度の成果を踏まえ、令和5年度に、次の諸点の協議からはじめ、具体化に向けて推進する。

- ・別組織の必要性（設立の意義）の確認／事業内容／組織形態／組織を担う人材

（6）構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

文化財保存活用地域計画の策定

日本遺産認定と、その後の日本遺産事業の展開が契機となって、住民や行政の間で中芸地域の歴史文化遺産への関心が高まる中で共通基盤が形成され、地域の文化財行政のマスタープランである文化財保存活用地域計画の中芸広域での策定を目指すこととなり、令和8年度の認定に向け、令和5年度から着手する。

協議会は、同計画の策定から策定後の計画実行に参画する。同計画は、地域総がかりの文化財保存・活用体制の構築を目的とするものである。そこに中芸の日本遺産を位置づけ、48 構成文化財の保存・活用についても記載する。日本遺産構成文化財をひとつの文化財群として捉え、地域に残るさまざまな文化財群との一体的な保存・活用を目指す。

未指定構成文化財の取扱い

日本遺産構成文化財の中に複数含まれている未指定の物件については、専門家による調査・研究を文化財保存活用地域計画に盛り込み、その結果明らかになった価値に応じた文化財指定を検討する。文化財指定により、規定に沿った保存措置を行うことができる。

文化財保存活動の担い手の養成

地域総がかりの文化財保存活動を担うのは、地域への誇りと愛着を持つ人びとである。そうした人材の創出に向けた第一歩として、文化財保存活用地域計画策定段階で実施されるワークショップ等を活用し、文化財を通じた地域の歴史文化の再発見・再認識の機会を提供する。

文化財の活用

中芸の日本遺産に関わる文化財の活用は、次の2点において行う。

- ① 教材としての活用：地域に誇りと愛着を持つ人びとの育成を目的として、中芸域内の小・中学校、高等学校で開講する日本遺産をテーマとする授業において、文化財を教材として活用する。
- ② 観光資源としての活用：文化財を保存し継承するためには、文化財の積極的な活用が不可欠である。協議会では、特に観光資源としての活用に積極的に取り組む。

具体的には、効果的に配置された構成文化財によって中芸の魅力を伝える旅行商品を造成、販売する。

（例：ゆず FeS への体験プログラム提供、アドベンチャーツアー）

それによって、宿泊業、飲食業など一般的な観光関連産業のほか、日本遺産ガイドをはじめ、他の中芸地域のガイド団体に収益をもたらすことで地域経済に貢献する。文化財に、観光活用という現代的な価値を付加することで、地域の人びとの保存への動機づけを引き出す。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	日本遺産推進体制強化事業		
概要	日本遺産事業を確実に推進するために、住民、日本遺産協議会、日本遺産推進室、行政、事業者の連携の下、効果的かつ効率的な活動ができる体制を構築する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産協議会組織体制強化	地域活性化計画の進捗を管理し、事業ごとにPDCA サイクルによる効果の検証と改善を確実に実施できる組織体制を、必要に応じて専門家による支援を受けて構築する。	中芸のゆずと森林鉄道 日本遺産協議会
②	地域事業者との連携強化	日本遺産推進室内に、地域事業者との連携担当職員を配置し、県内外での産品販売機会の紹介など、日本遺産ストーリーに関わる商品を有する事業者の収益事業を支援する。	中芸のゆずと森林鉄道 日本遺産協議会
③	収益事業を担う民間団体の設立支援	日本遺産推進室内に、起業支援担当職員を配置し、中芸の日本遺産に関わる収益事業を担う団体設立を支援する。	中芸のゆずと森林鉄道 日本遺産協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	事業者との連携実績		13 社
2021			14 社
2022			15 社
2023	事業者との連携実績		18 社
2024	事業者との連携実績		19 社
2025	事業者との連携実績		20 社
事業費	2023 年度：500 千円 2024 年度：500 千円 2025 年度：500 千円		
継続に向けた事業設計	戦略会議において、当事業を定期的にチェックする機会を設け、その評価によって継続、変更、終了を指示する。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - A)

事業名	地域活性化計画推進事業		
概要	将来像の実現に向け、地域活性化計画の実施状況を把握・改善できるように、各会議の有機的な連携を図り、効率的に開催する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	戦略会議の活性化	中芸地域に関わる有識者及び2名の日本遺産プロデューサーから構成される戦略会議に、地域活性化計画の進捗評価を委任し、年3回定例、その他必要に応じて開催する。	中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会
②	部会（ワーキンググループを含む）・ゆず FeS 部会の活性化	住民が日本遺産事業に参加する場である部会を定例化し、年4回開催し、部会の下で活動するワーキンググループの進捗・成果を評価するとともに、住民の参加を促進させる。ゆず FeS 部会は、第10回から第12回（年1回開催）までの企画・運営を担う。	中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会
③	担当者会の活性化	5町村各1名の日本遺産担当による会議を、月2回程度の定例会議として開催する。各町村役場と住民の代表として、地域活性化計画を推進する。	中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	戦略会議・部会・担当者会開催数		18回
2021			14回
2022			24回
2023	戦略会議・部会・担当者会開催数		20回
2024	戦略会議・部会・担当者会開催数		20回
2025	戦略会議・部会・担当者会開催数		20回
事業費	2023年度：150千円 2024年度：150千円 2025年度：150千円		
継続に向けた事業設計	戦略会議及び部会の開催に係る実務（招集・開催・議事録作成）を日本遺産推進室が業務の一環として担い、各会議の役割が十全に果たされるよう、リモート開催を含めて定例開催する。担当者会については、各町村持ち回りで、会場準備を含め担当者が実務を行う。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - B)

事業名	経済的な地域活性化に向けた中長期的な戦略立案事業
概要	将来像の実現に向け、有効なデータを効果的に使って戦略を立案する。

	取組名	取組内容	実施主体
①	観光マーケティング戦略立案	観光動態モニタリングサービス“おでかけウォッチャー”を活用し、質量ともに充実した情報を基に観光マーケティング戦略を立案する。 連携先：高知県東部観光協議会	中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会
②	顧客リストを活用したマーケティング戦略立案	ツアー、体験プログラム、イベント等、中芸の日本遺産事業の参加者を、個人情報厳重に扱いつつ、顧客リストとして一元管理し、マーケティング戦略を立案する。	中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会
③	中芸版文化財保存活用地域計画策定支援	中芸版文化財保存活用地域計画策定に向けて実施される調査、開催されるワークショップ等に協力、参加し、同計画に日本遺産を明確に位置付け、構成文化財の保存・活用の実効的な方策確立を目指す。 連携先：中芸地域教育委員会、高知県歴史文化財課	中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2020	リスト化された顧客数（累計）	189 人
2021		399 人
2022		490 人
2023	リスト化された顧客数（累計）	800 人
2024	リスト化された顧客数（累計）	1,500 人
2025	リスト化された顧客数（累計）	3,000 人

事業費	2023 年度：0 千円 2024 年度：0 千円 2025 年度：0 千円
継続に向けた事業設計	おでかけウォッチャーのデータ閲覧拠点である（一社）高知県東部観光協議会との継続的協力関係を維持する。マーケティングを意識した顧客情報の収集につとめる。マーケティング専門人材を確保する。中芸版文化財保存活用地域計画については、日本遺産推進室から委員として参加する。

(7) - 3 人材育成

(事業番号 3 - A)

事業名	日本遺産をけん引する地域リーダー育成事業
概要	日本遺産事業を中・長期的にけん引する地域リーダー候補人材を地域内外から求め、育成する。

	取組名	取組内容	実施主体
①	ゆず FeS 企画・運営事業	地域づくりに関心があり、行動力のある人材を中芸に導くために、地域内外から募集したスタッフ及び体験プログラム案内人を中核として、ゆず FeS の企画・運営を実施する。 連携先：(一社) 高知県東部観光協議会、日本遺産中芸ゆずと森林鉄道ガイド会	中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会
②	中芸地域ビジネス講座の開催	中芸の経済的な活性化に貢献するビジネスを展開する意志をもった人材を、地域内外から集めて講座を開き、起業や事業拡張を支援して、地域のビジネスリーダーとして育成する。 連携先：高知県	中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会
③	行政と連携した移住定住促進	日本遺産に関心を持つ、あるいは日本遺産事業との関りで形成された関係人口に対して、各町村の移住促進策と連携し、移住定住への働きかけを行う。 連携先：中芸地域 5 町村、高知県	中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2020	中芸地域ビジネス講座参加者のべ人数 (2022 年より開催)	—
2021		—
2022		39 人
2023	中芸地域ビジネス講座参加者のべ人数	45 人
2024	中芸地域ビジネス講座参加者のべ人数	45 人
2025	中芸地域ビジネス講座参加者のべ人数	45 人

事業費	2023 年度：400 千円 2024 年度：400 千円 2025 年度：400 千円
-----	--

継続に向けた事業設計	各町村の総合計画に日本遺産に関する項目を明記し、移住定住促進政策との関連付けを行う。 ゆず FeS 及びビジネス講座の総合的価値を高め、それぞれの事業の継続を図る。
------------	---

(7) - 4 整備

(事業番号 4 - A)

事業名	ストーリー／構成文化財の価値・魅力再発見事業		
概要	調査・研究によって深掘りすることで、日本遺産ストーリーや構成文化財の価値や魅力を倍加させ、交流人口、関係人口の増加、地域アイデンティティ醸成の効果を増強する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	中芸地域の歴史文化を学ぶ体験プログラムの造成	地域住民が構成文化財の価値や魅力の再評価・再発見の機会とするため、特定の構成文化財を題材としたゆず FeS 体験プログラムを造成する。 連携先：旅行代理店、博物館、郷土資料館、中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会	民間非営利団体
②	中芸の歴史文化講座	中芸の地域住民が、中芸地域住民としてのアイデンティティを持つ契機を得るために、日本遺産に関わる、居住する町村以外の町村の歴史文化を学ぶ機会を提供する。 連携先：高知大学、中芸地域教育委員会、博物館、郷土資料館	中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会
③	サブストーリー発見プロジェクト	日本遺産ストーリーの価値と魅力を高めるため豊富な調査・研究蓄積をもとに、サブストーリーを紡ぎ出し、公開する。正規の授業に位置づけ、受講者として学生が参加する。 連携先：中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会	高知大学
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	歴史文化をテーマとする講座・体験プログラム等の開催回数		—
2021		—	
2022		—	
2023	歴史文化をテーマとする講座・体験プログラム等の開催回数		10回
2024	歴史文化をテーマとする講座・体験プログラム等の開催回数		10回
2025	歴史文化をテーマとする講座・体験プログラム等の開催回数		10回
事業費	2023年度：100千円 2024年度：100千円 2025年度：100千円		
継続に向けた事業設計	民間団体や大学が主体となる事業については、それぞれの事業費で実施するが、実施にあたり協議会が支援する。協議会主催の講座は、協議会事業費から必要経費を支出する。		

(7) - 4 整備

(事業番号4-B)

事業名	拠点整備事業		
概要	「日本遺産ゆずロードミュージアム」(仮称)を充実させる。並行して、運営の中で得られた情報を基に、複数拠点化、ハード整備等拠点の在り方を協議検討し、恒久的な拠点整備に向けたロードマップを作成する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産ゆずロードミュージアム整備	日本遺産ストーリーを体験する拠点となるミュージアムとして、高知大学による中芸地域研究の蓄積や博物館展示のノウハウを活かし、民間事業者と高知大学の共同により必要な整備を行う。 連携先：中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会、安田町	高知大学 民間映像制作会社
②	拠点の在り方に関するワーキンググループ設置	「日本遺産ゆずロードミュージアム」の運営を通して来場者データを収集し、立地、展示内容・方法、運営方法等の面から、中芸の日本遺産に必要な拠点施設の在り方を検討するワーキンググループを設置し、あるべき形を描き、実現に向けた計画立案から実現までの方法を確定する。 連携先：高知大学	中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	日本遺産ゆずロードミュージアム正式開設は、2023年4月		—
2021			—
2022			—
2023	日本遺産ゆずロードミュージアム来場者数		1,000人
2024	日本遺産ゆずロードミュージアム来場者数		1,500人
2025	日本遺産ゆずロードミュージアム来場者数		2,000人
事業費	2023年度：500千円 2024年度：500千円 2025年度：500千円		
継続に向けた事業設計	拠点施設整備は、中芸の日本遺産事業の懸案事項であり、ワーキンググループを設置することによって協議会事業として位置づけ、経費は実施主体と分担し、必要な経費を協議会から支出する。		

(7) - 4 整備

(事業番号4-C)

事業名	看板設置・改修事業		
概要	中芸の魅力を伝え、交流人口、関係人口の増加につなげるために、中芸の日本遺産ストーリーのキーワードである“ゆずロード”を分かりやすく伝える看板の設置、改修を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	“ゆずロード”看板設置	ストーリーにある“ゆずロード”を、来訪者に伝えるために、ゆず産地である北川村・馬路村の事業者が看板を設置する。 連携先：中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会	民間企業等
②	日本遺産ストーリー／構成文化財等看板改修	日本遺産ストーリー／構成文化財等の看板のうち、汚損や損壊により機能を滅失した看板を改修する。 連携先：中芸地域5町村 日本遺産中芸ゆずと森林鉄道ガイド会	中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	看板に記載されたQRコードからHPへのアクセス数		—
2021			—
2022			—
2023	看板に記載されたQRコードからHPへのアクセス数		500件
2024	看板に記載されたQRコードからHPへのアクセス数		800件
2025	看板に記載されたQRコードからHPへのアクセス数		2,000件
事業費	2023年度：3,000千円 2024年度：2,000千円 2025年度：2,000千円		
継続に向けた事業設計	看板設置は、民間事業者もしくは協議会の費用で行う。看板の設置・改修は、中芸の日本遺産に関して基本的な情報を伝えるツールであり、原則として協議会の費用負担で行う。看板設置について、記載内容、設置場所等については協議会が協力し、民間事業者の自主財源による看板等設置を促す。		

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	インバウンド含む旅行商品造成事業		
概要	インバウンドを含む地域内外の人々に日本遺産のストーリーを体験してもらい、経済的な活性化をもたらすためのアドベンチャーツアー、体験プログラム等を販売する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産台湾プロモーション	ターゲットを台湾に絞ったインバウンド誘致に3カ年計画で取り組む。 連携先: 高知県東部観光協議会、高知県観光コンベンション協会	中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会
②	e-Bike 高付加価値化商品造成	これまで実施してきたモニターツアーで得られた成果をもとに、インバウンド、国内富裕層向高額旅行商品を造成し、中芸の日本遺産公認ツアーとして販売する。 連携先: 旅行代理店	中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会
③	日本遺産ガイド養成事業	日本遺産関連のツアーや体験プログラムを高付加価値化するために不可欠な要素である優秀なガイドを養成する。 連携先: 日本遺産中芸ゆずと森林鉄道ガイド会	中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会
④	ゆず森林ロードウェルネスツーリズム造成	ウェルネスウォーキングを軸とした、中芸ならではのウェルネスツーリズムを造成する。 連携先: 日本ウェルネスウォーキング協会、旅行代理店	中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020			—
2021	外国人観光客の宿泊者数		249人
2022			51人
2023	外国人観光客の宿泊者数		300人
2024	外国人観光客の宿泊者数		500人
2025	外国人観光客の宿泊者数		1,000人
事業費	2023年度: 10,000千円 2024年度: 5,000千円 2025年度: 3,000千円		
継続に向けた事業設計	日本遺産による中芸の経済的活性化には、インバウンド誘致や高付加価値ツアーの販売は重要な要素であるが、中芸地域としてはじめての取組であり、商品化までは協議会事業とし、必要な経費を協議会から支出する。		

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-B)

事業名	旅行商品販売促進事業		
概要	造成した旅行商品を販売するために、観光をテーマとする見本市等に出展者として参加し、効果的なPRを行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ツーリズムエキスポジャパンへの出展	造成した旅行商品に対するマーケットの反応を確認するとともに、取扱う事業者とのマッチングの機会を得るために、年1回開催される国内最大の旅行商品見本市に出展する。 連携先：旅行代理店	中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会
②	ワールドアドベンチャートラベルワールドサミットへの出展	インバウンドを対象として造成した旅行商品（アドベンチャーツアー）に対するマーケットの反応を確認するとともに、取扱う事業者とのマッチングの機会を得るために、アドベンチャーツアー専門の見本市（隔年開催）に出展する。 連携先：旅行代理店	中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会
③	日本遺産サミットほか日本遺産関連イベントへの出展	中芸の日本遺産ストーリーを通じた中芸の魅力を伝え、実際に中芸来訪者増、中芸の製品の購入者増を目的とした出展を行う。 連携先：中芸地域の事業者、旅行代理店	中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会
④	100年フード関連イベントへの出展	構成文化財「ゆず料理」は、観光資源として重要な食文化である。文化庁から100年フードに認定されたことで得られた食のイベント等への出展機会を活かし、中芸の“食”の魅力を発信し、中芸に誘客する。	中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020			—
2021	具体的な商談にいたった旅行代理店数		30社
2022			50社
2023	具体的な商談にいたった旅行代理店数		55社
2024	具体的な商談にいたった旅行代理店数		70社
2025	具体的な商談にいたった旅行代理店数		60社
事業費	2023年度：800千円 2024年度：800千円 2025年度：800千円		
継続に向けた事業設計	インバウンド誘致や高付加価値ツアーの販売促進については協議会事業とし、必要な経費を協議会から支出する。		

(7) - 6 普及・啓発

(事業番号6-A)

事業名	中芸を会場とする観光イベントの企画・運営等		
概要	地域内外から集客できる、日本遺産ストーリーをテーマとする中・大規模観光イベントを企画・運営し、外部の評価を通じて中芸住民に中芸の日本遺産の価値・魅力を伝え、地域アイデンティティを醸成する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	森林鉄道フェスティバルの開催・参加	森林鉄道遺産の保存・活用を目的に活動する諸団体の全国ネットワーク組織が主催し、中芸地域を会場に開催される森林鉄道サミットの連携イベントとして、全国の鉄道ファンを対象としたフェスティバルを開催する。次年度以降の開催地にブース出展し、中芸の日本遺産をPRする。 連携先：中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会、鉄道史学会、旅行代理店	中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020			—
2021	—		—
2022			—
2023	イベント来場者数		3,000人
2024	中芸ブースへの来訪者数		300人
2025	中芸ブースへの来訪者数		500人
事業費	2023年度：7,500千円 2024年度500千円 2025年度：500千円		
継続に向けた事業設計	地域アイデンティティ醸成につながる効果的な観光イベントの企画・運営に関して、戦略会議、部会、担当者会で随時意見を求め、検討の上有効とみなされたものについて、実施に向けて協議会が事業化する。		

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-B)

事業名	学校連携による次世代育成事業		
概要	中芸地域内の小・中学校、高校と連携し、日本遺産をテーマとする授業を継続的に実施する。高知大学との連携を強化して、大学生の中芸への関心を喚起し、卒業後も関係人口として関わりが継続する仕組みを構築する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	中芸域内小・中学校、高校での「中芸日本遺産学」の開講	正規の授業のなかで「中芸日本遺産学」を開講し、中芸の日本遺産の価値・魅力を伝え、地域への愛着と誇りを醸成する。開講する学年は教育委員会と協議の上決定するが、小中高それぞれで、日本遺産に関する授業を1回は行う。 連携先：5町村教育委員会、教員、日本遺産ガイド会	中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会
②	大学との連携強化	これまで多くの成果を生んできた高知大学等の連携をさらに強化し、フィールドワークに訪れた学生が、卒業後に関係人口として、中芸と中芸の地域住民に関わる仕組みを整備する。さらに連携先を広げる。 連携先：中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会	大学
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	中芸域内小・中学校、高校での授業実施回数		4回
2021			2回
2022			4回
2023	中芸域内小・中学校、高校での授業実施回数		7回
2024	中芸域内小・中学校、高校での授業実施回数		7回
2025	中芸域内小・中学校、高校での授業実施回数		13回
事業費	2023年度：35千円 2024年度：35千円 2025年度：65千円		
継続に向けた事業設計	各町村教育委員会との連携を確立することにより、継続する。講師料については、協議会が負担する。		

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	広報整備・強化事業
概要	観光動態モニタリングサービスを導入して得られた情報を活用して、効果的・効率的な情報発信を行う。インバウンド誘致促進を目的とし、広報媒体の多言語化を行う。ツアー、体験プログラム、イベント参加者等を中芸の顧客（ファン）として捉え、個人情報の取扱いに留意して顧客管理を行う。

	取組名	取組内容	実施主体
①	観光動態モニタリングサービス“おでかけウォッチャー”を活用した情報発信	観光動態モニタリングサービスを導入して、中芸地域来訪者の属性や行動分析を行い、その結果に基づいた効果的・効率的な情報発信を行う。 連携先：(一社) 高知県東部観光協議会	中芸のゆずと森林鉄道 日本遺産協議会
②	広報媒体多言語化	パンフレット、HP等広報媒体に英語、繁体語の記述を掲載する。英文に関しては、中芸地域に赴任している国際交流員のネットワークの協力を得る。 連携先：中芸地域国際交流員ネットワーク	中芸のゆずと森林鉄道 日本遺産協議会
③	パンフレット改訂版の制作	中芸の日本遺産の価値と魅力を伝える基本的なツールとしてパンフレットの有効性を確認している。現行パンフレット制作から5年が経過し、内容の追加・修正及び多言語化が必要となったため、写真等の撮影も含め、改訂版を制作する。	中芸のゆずと森林鉄道 日本遺産協議会
④	HPの充実とSNS発信の強化	動画等、日本遺産ストーリーを伝える魅力的なコンテンツを制作し、HPにアップする。SNSごとの利用者特性を踏まえ、ターゲットへの効果的な情報発信方法を確立し、定型化する。	中芸のゆずと森林鉄道 日本遺産協議会

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2020	HPの英語ページへのアクセス数	158回
2021		257回
2022		242回
2023	HPの英語・繁体字ページへのアクセス数	3,000回
2024	HPの英語・繁体字ページへのアクセス数	10,000回
2025	HPの英語・繁体字ページへのアクセス数	20,000回

事業費	2023年度：5,500千円 2024年度：1,200千円 2025年度：1,200千円
継続に向けた事業設計	2023年度にパンフレットの改訂（含多言語化）、HPの基本情報に関する翻訳を完成して公開する。2024年度以降に発生する新規情報の翻訳を含め、日本遺産による地域活性化を実現する基本整備に係る事業として、経費は協議会が負担する。

